
探偵少年。

苑

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

探偵少年。

【Zコード】

Z0949B

【作者名】

苑

【あらすじ】

冷静、クールな白宮翠しらみやすいは高校1年の私立探偵。個人的な事務所を持つ、全てが謎の白宮少年に事件が次々と舞い込み…！？

『HIDE』 [1] 薔薇に狂つ男

「 で、依頼を受けて“あちやつた”わけだ?」

一枚の紙をひらひらさせながら白面翠は言った。
明らかに白目田で。

「あ、うん。駄目だつた?」

あ、あははと笑つて「まかす男 雪野真一を憎々しげに警し、
翠はわざとじろじろ深いため息をついた。

「何だよ、言いたい事あるならちやんと……」

「浅はか男」

「うつ」

「低脳」

「あうつ」

冷めた瞳で、淡々と言つ。

優しさなんてどこへやら、だ。

真一も本当の事なので言ひ返せない。

「 小学校からやつ直せば?」

カツチーン

流石にこねばっかりは、真一も聞き捨てならなかつた。

「ビーゆつ意味だよつー悪いつて言つてん…」

叫んでから、真一ははつと気付く。

平然と真一を見つめる翠の口許には、微かに笑みが浮かんでいた。

一見、天使のに見えるそれは

今は悪魔の微笑みでしかなかつた。

「へえ逆ギレ？悪いと思つてる人間が、逆ギレするんだ？」

「で、でも小学校はないかなー」なんて。あは、あははは

「そう。じゃあ“頭が良い雪野くん”は、頑張つて働いてくれるん
だね？」

反論できるわけが、無かつた。

FILE 1 [2] 薔薇に狂う男

真一に適当な仕事を押し付けて事務所から追い出した後、翠は机の上で腕を組んだ。

翠がいない間に、真一が勝手に受けてしまった依頼内容。それが、翠にはどうも不可解だったのだ。

数日前、依頼主である作野英也さくのひやにおかしな招待状が届いた。

招待状は全部で5通。

1通目は、『貴殿を薔薇の晩餐会へ招待します。』

2通目は、『必ず黒いスーツで来て下さい』

3通目は、『バラを一束もって来て下さい』

4通目は、『薔薇の刺にはお気をつけ下さい』

5通目は……

『貴方は助からない』

送り主は不明で、いつ、どこで晩餐会を開くのも招待状は一切書いていない。

しかし必ず、この5通の招待状には赤い薔薇のしおりがついていた
という。

とにかく見覚えのないこの招待状を誰が何の為に出したのか、翠に突き止めてほしい。

というのが、だいたいの依頼内容だった。

悪戯にしては手が込みすぎているこの招待状。

5枚を机に並べ、翠はふつと小さく笑った。先程は勝手に依頼を受けた真一に文句を言ったものの、新たな難事件の予感にぞくぞくしながら。

(前菜には…、なるかな…)

この招待状の奇妙な点は、2つ。

まず1つ目。

1通目では作野を『貴殿』と言っているのに、5通目では『貴方』に変わっている。

次に2つ目。

1通目と2～5通目では明らかに違いが見られる。

それは……書き方。

招待状は全てワープロで打った文字なのだが、どうも違和感がありますぎるのだ。

まるで　　1通目は大人が、2～5通目は子供が書いたかのよう。

他にも奇妙な点はいくつかあったが、とりあえず翠は招待状をまとめて鞄にしました。

翠はこれから、学校だ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0949b/>

探偵少年。

2010年10月28日08時21分発行